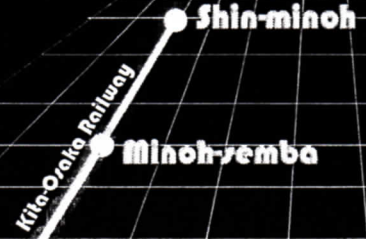


北大阪急行線延伸



プロジェクト・アウトライン

【説明会資料（平成26年度）】

箕面市

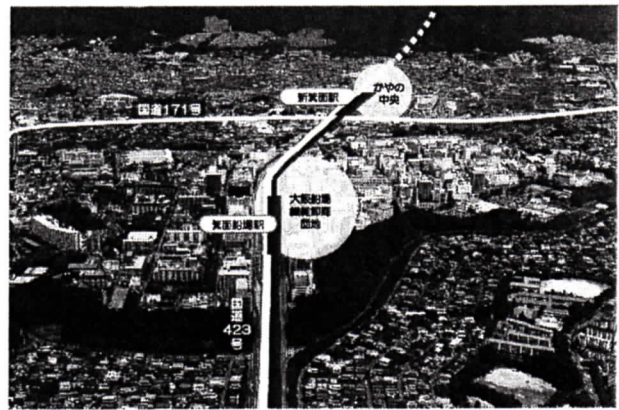
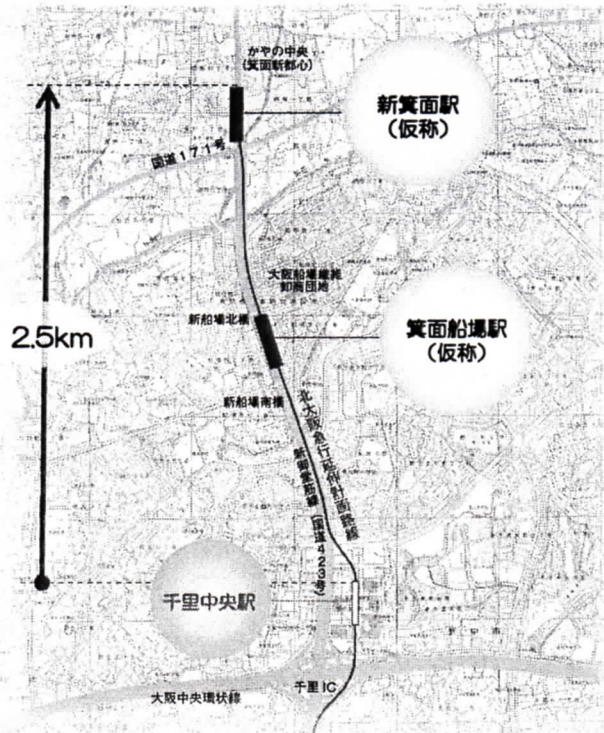
もくじ

北大阪急行線延伸事業の概要	p. 1
北大阪急行線延伸に係る経緯	p. 2
鉄道整備計画① ルートと駅位置	p. 4
鉄道整備計画② 新駅の計画	p. 5
鉄道整備計画③ 整備主体と運行主体	p. 6
鉄道整備計画④ 目標スケジュール	p. 7
延伸の効果① 徒歩圏・自転車圏が増える	p. 8
新御堂筋の渋滞状況	p. 9
延伸の効果② 広域パークアンドライドで渋滞緩和	p.10
新駅周辺のまちづくり	p.11
北大阪全体の発展をめざして	p.12

北大阪急行線延伸事業の概要

北大阪急行線延伸事業は、現在江坂～千里中央までの北大阪急行線を北へ2.5km延長し、「新箕面駅」と「箕面船場駅」（いずれも仮称）の2つの新駅をつくる事業です。

この資料中、延伸後の駅名に「(仮称)」と明記していない場合がありますが、いずれも仮称です。



1

北大阪急行線延伸に係る経緯

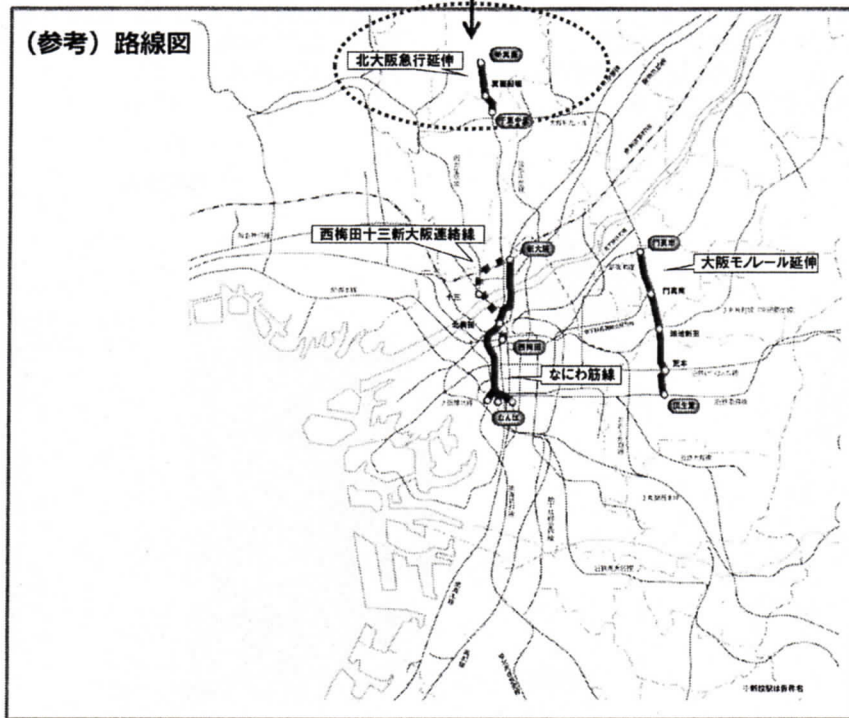
- H元 国の運輸政策審議会答申第10号に位置付け
 (「大阪圏における高速鉄道を中心とする交通網の整備に関する基本計画について」)
 「北大阪急行南北線の延伸線 千里中央～箕面中部」が、「目標年次(西暦2005年)までに整備に着手することが適当である区間」と位置付けられた
- H16 国の近畿地方交通審議会答申第8号に位置付け
 (「近畿圏における望ましい交通のあり方について」)
 「京阪神圏において、中長期的に望まれる鉄道ネットワークを構成する新たな路線」として以下のとおり記載された
 ○北大阪急行南北線延伸 千里中央～箕面船場～新箕面 2.5km
 (北大阪急行千里中央駅から新箕面へ延伸する路線)
 ・箕面新都心、「水と緑の健康都市」の開発等に伴い発生する輸送需要に対応するとともに、当該地域からJR新大阪駅及び大阪都心部へのアクセス機能の強化に資する路線である。
 ・道路交通混雑の緩和及び環境負荷の軽減のために資する路線である。
- H24.6 ・大阪府市「グランドデザイン・大阪」に位置付け
 「鉄道ネットワークの充実」の項において、北大阪地域と大阪都心との直結を図る施策として「北急延伸」が位置付けられた
- H26.1 ・大阪府「公共交通戦略」に位置付け
 「整備について個別の検討に入る路線」の一つとして、北大阪急行線の延伸が位置づけられた
- H26.3.31 「北大阪急行線の延伸に関する基本合意書」に調印

2

(参考)

大阪府「公共交通戦略」(H26.1)から抜粋

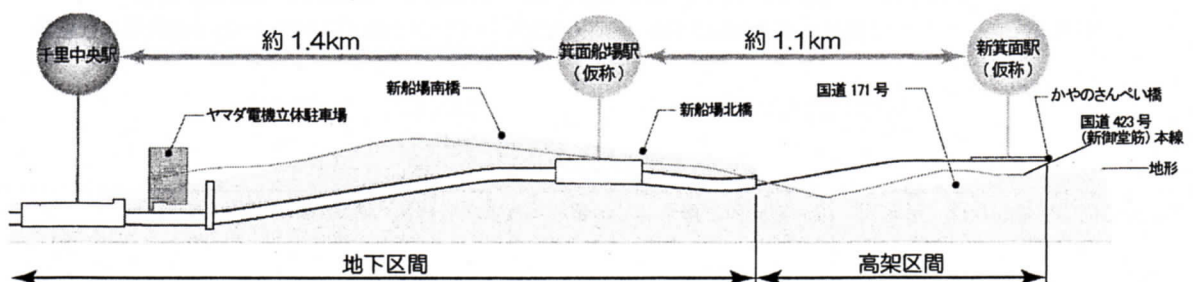
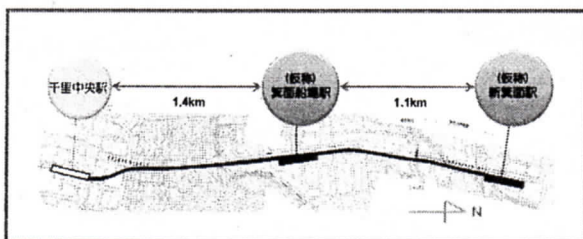
北大阪急行線の延伸を位置づけ



3

鉄道整備計画① ルートと駅位置

延伸線は、千里中央駅を出発して、国道423号沿いを北上します。最初に停車する(仮称)箕面船場駅は地下駅で、新船場北橋と新船場南橋の間に設置します。電車はそのあと地上に出て高架になり、終点の(仮称)新箕面駅の2階ホームに停まります。



4

鉄道整備計画② 新駅の計画

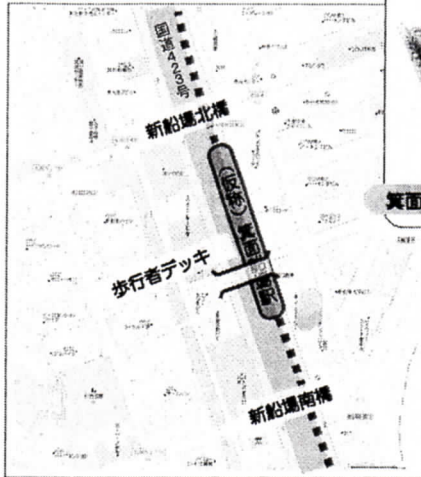
箕面船場駅

箕面船場駅は、国道423号の東側に設置します。階層は3層、地下3階がプラットフォーム、地下2階が改札になる計画で、駅出口前の広場や地下駐輪場などについても検討を進めています。また、国道の西側からのアクセス性を確保するため、国道をまたぐ歩行者デッキを設置します。

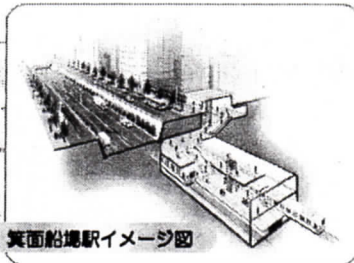
新箕面駅

新箕面駅は高架駅で、2階がプラットフォームです。「交通結節点」（人や物の輸送で、複数の交通手段が接続する場所）として、駅前広場の整備を進めます。また、高架下などに駅利用者のための新たな駐輪場も設置していきます。

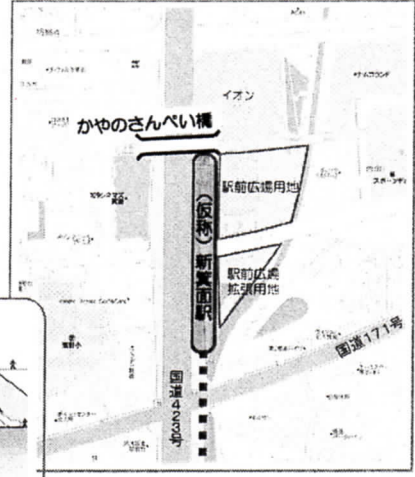
箕面船場駅



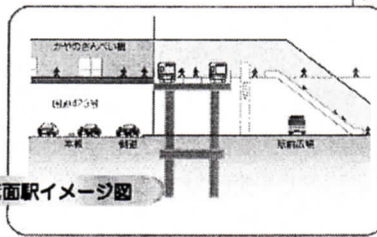
箕面船場駅イメージ図



新箕面駅



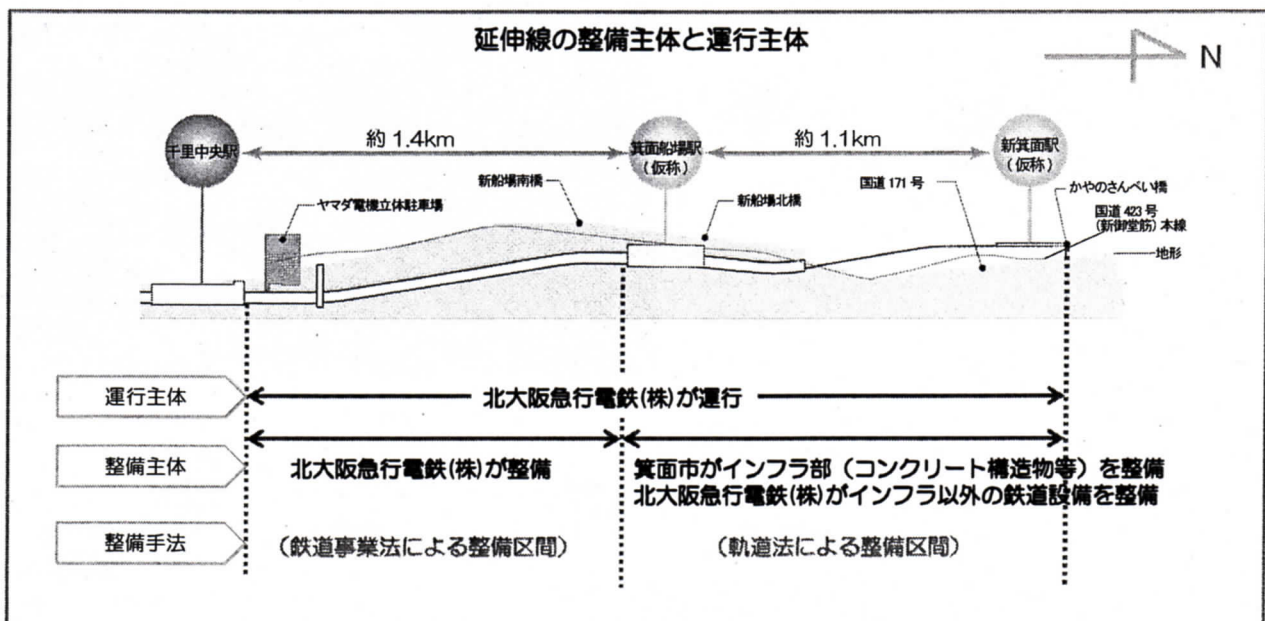
新箕面駅イメージ図



5

鉄道整備計画③ 整備主体と運行主体

延伸線は、箕面市と北大阪急行電鉄(株)が役割分担して整備し、整備後の施設はそれぞれの整備主体が保有します。開業後の鉄道の運営は、北大阪急行電鉄(株)が行います。

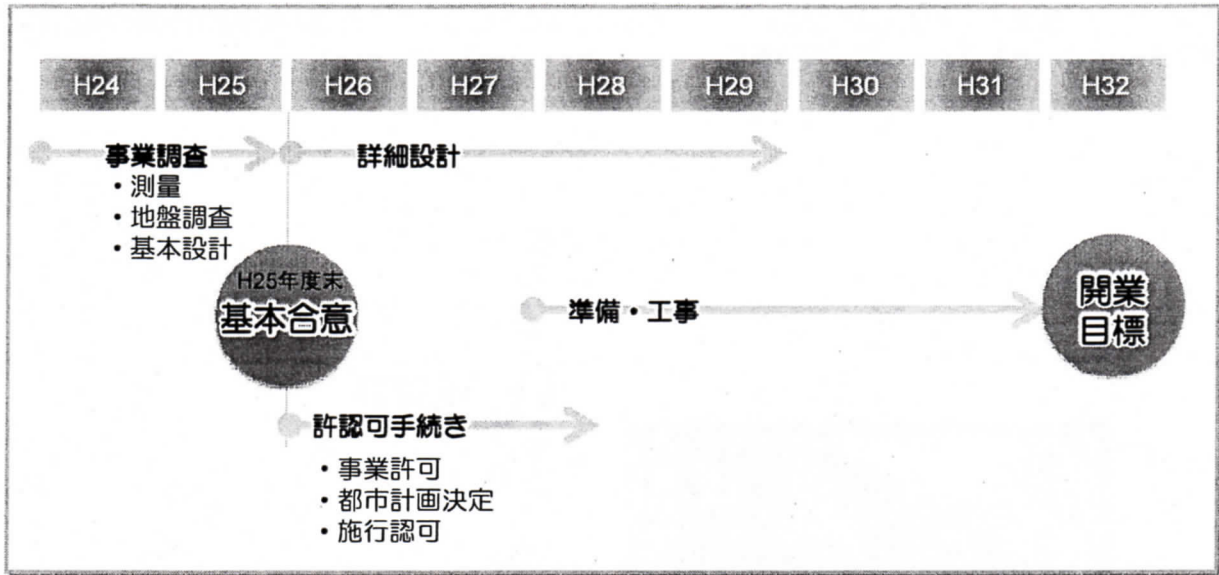


※延伸当初に必要な車両(3編成)は、箕面市が保有して、箕面市から北大阪急行電鉄(株)に貸与します。

6

鉄道整備計画④ 目標スケジュール

北大阪急行線延伸は、平成32年度の開業を目標に、各種手続きを進めています。



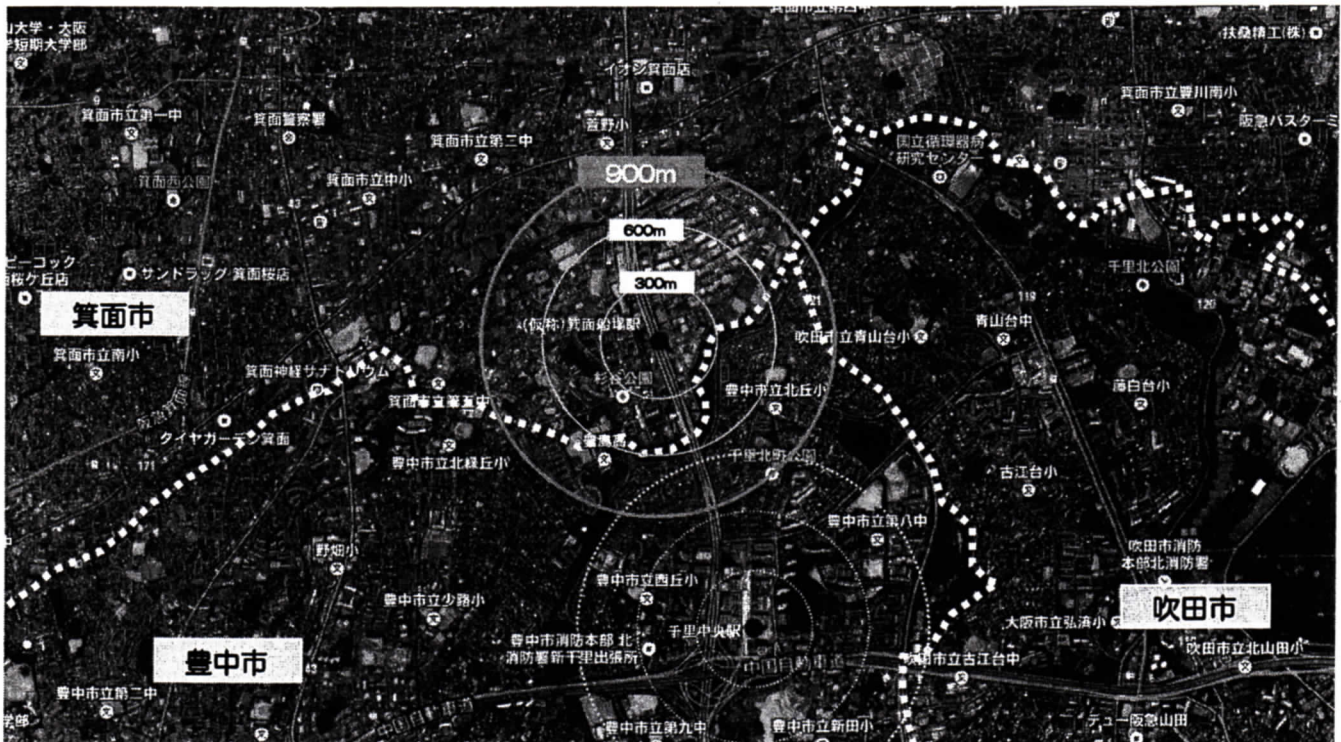
▶ 今後の説明会など

都市計画決定に関する説明会、工事に関する説明会は、別途開催を予定しています。

7

延伸の効果① 徒歩圏・自転車圏が増える

箕面船場に新駅ができることにより、豊中市域においても、駅まで徒歩・自転車でアクセスできる範囲が増えます。



徒歩圏：駅までの所要時間が15分の範囲（約900mを設定（3.6km/hで計算））

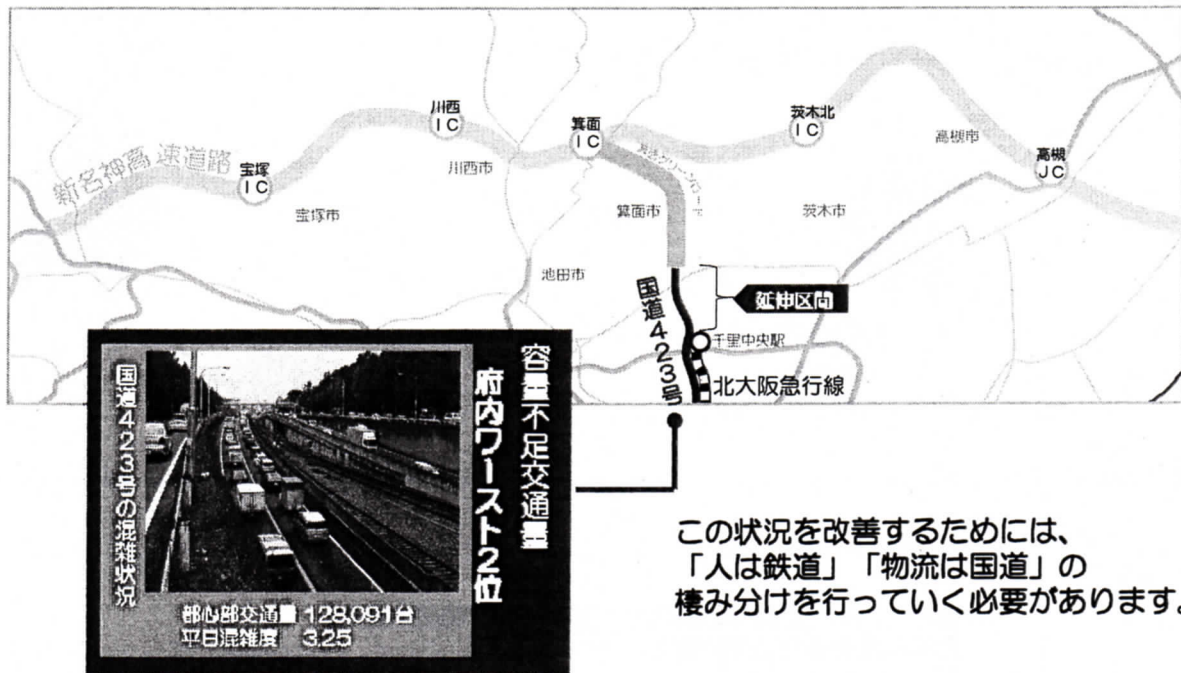
* 速度は国土交通省費用便益分析マニュアルによる

8

新御堂筋の渋滞状況

平成28年開通予定の新名神高速道路は、神戸から高槻間に「宝塚」「川西」「箕面」「茨木北」の4つのインターチェンジができますが、このうち大阪都心への広域アクセス道路に接続しているのは「箕面」だけで、箕面グリーンロードから大阪都心に向けて大きな物流の流れが生まれます。

その一方で、国道423号（新御堂筋線）は、現在でも大阪府内ワースト2位の慢性的な渋滞が発生しており広域アクセスのボトルネックとなっています。



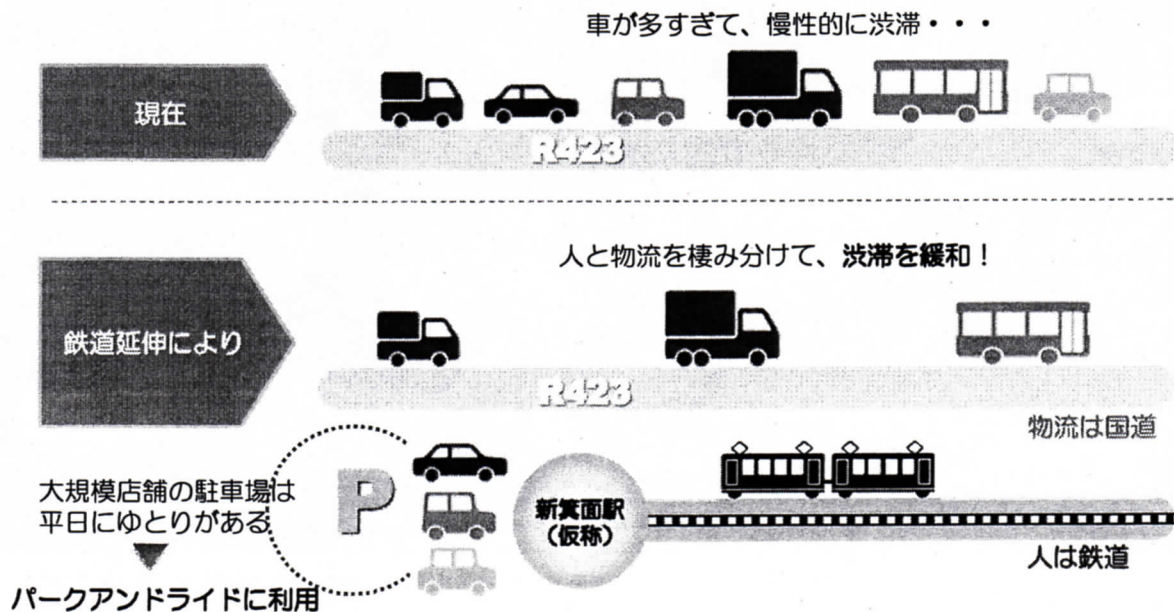
延伸の効果② 広域パークアンドライドで渋滞緩和

新箕面駅で、平日に余裕のある店舗の駐車場を利用して「パークアンドライド」を実施することにより、物流は国道を、人は鉄道を利用するように棲み分けて、国道の交通量を減らし、渋滞を緩和することができます。

パークアンドライドとは

自家用車で駅まで行き、駅に車を停めて、公共交通機関に乗り換えるしくみのことです。

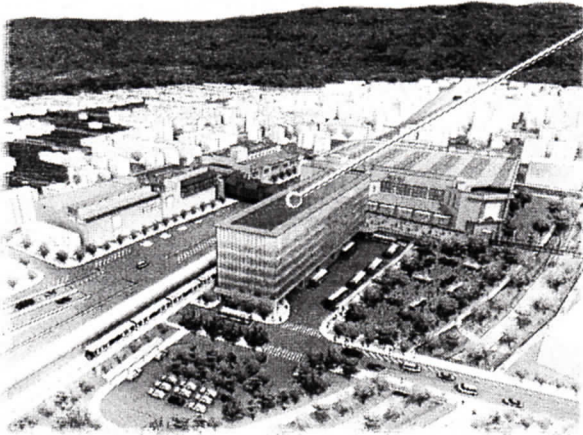
- 都心部に向かう道路の渋滞を緩和する
- 排気ガスを減らし、CO₂を削減する



新駅周辺のまちづくり

箕面市では、新しくつくる駅周辺に市外のかたにもご利用いただける施設などを整備し、北大阪エリア全体の活性化をめざしています。

新箕面駅周辺

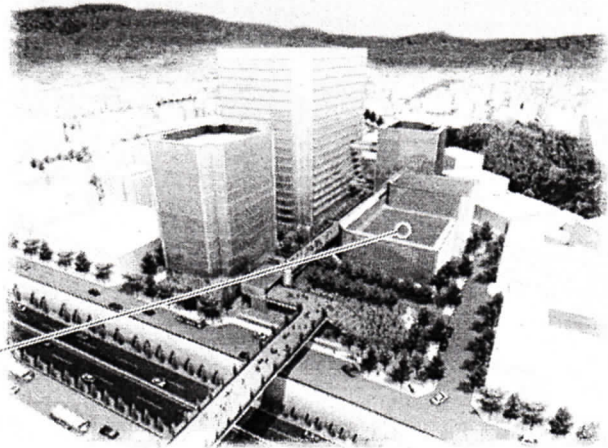


「子育て」を核コンセプトにした施設を中心に、みのおキューズモールの魅力をさらに引き出します

公共ホールを整備します

保健医療・スポーツなどの健康機能を備えた民間複合施設の整備をめざしています

箕面船場駅周辺



11

北大阪全体の発展をめざして

北大阪急行線の延伸は、各駅周辺がそれぞれ集客力の高い魅力あるまちづくりを進め、都市交通の再編などを行うことで、千里中央も含めて北大阪エリア全体が活気づききっかけになります。

“良質な住宅地”のイメージが強い北大阪エリアに、ショッピング、文化、健康、子育てといった魅力的なコンテンツが詰まった新しいゾーンが生まれることで、地域全体のイメージアップにつながります。

